

第 16 回 木津川上流河川環境研究会

議事要旨

【開催概要】

開催日時：平成 22 年 1 月 5 日（火） 13：30～15：30
開催場所：近畿地方整備局 第 1 別館 2F 第 3 会議室

【出席者】

委員：6 名
事務局：木津川上流河川事務所（2 名）
オブザーバー：水資源機構関西支社（1 名）木津川ダム総合管理所（2 名）
その他：木津川上流河川事務所、水資源機構木津川ダム総合管理所

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 研究会前回議事の確認
4. 議事
 - (1) 研究会委員の変更
 - (2) 平成 21 年度の検討方針など
5. その他
 - ・今後の予定
6. 閉 会

【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 研究会前回議事の確認
参考資料-1「第 15 回議事要旨」を用いて、事務局より前回研究会の議事概要について説明し了承を得た。ただし、一部誤字の指摘を受けて修正。

4. 議 事

4.1 研究会委員の変更

事務局より、前年度まで委員を委嘱していた川上氏から委員を辞退する旨の申し出を受けたため、後任の適切な学識者を探したが見当たらないとの報告を行った。

このため、当面は委員の補充を行わずに、7名の委員で研究会を開催することで了承を得た。

4.2 平成 21 年度の検討方針

事務局より、資料－2「平成 21 年度の検討方針」、資料－3「ナルミ井堰魚道簡易改良検討」、資料－4「河道内樹木の伐採について」、資料－5「河川環境目標について」説明を行い、各内容について審議いただいた。

審議結果は以下のとおりであった。

(1)平成 21 年度の検討方針について

- ・特に意見なし。(ただし、個別の検討結果の報告に関する審議の中で検討方法等について意見を頂いた。)

(2)ナルミ井堰魚道簡易改良検討結果について

- ・簡易的な改良をすぐにやるべきであり、とにかく検討より実行しつつ試行錯誤することが大事である。
- ・ナルミ井堰の落ち口を塞ぐことができない場合は、放水口を下流に誘導するとか、落ちても1カ所に集中しないように分散させるとか、を検討することも考えられる。
- ・コストのかからない簡易的な方法で改良し、破損しても地元の人にも手伝ってもらって、継続事業のように毎年整備するのも1つの手法である。
- ・とりあえずは土嚢等の簡易な方法の改良でもいいと思うが、次のステップとして、魚道の機能を保つために河床を維持する方向性が必要である。

(3)河道内樹木の伐採について

- ・岩倉地区の切り下げ区域は、洪水時に冠水して新しい土が載ることが重要なポイントであり、一年生草本であれば土が載ればもとの状態になって管理上は問題ない。
- ・岩倉地区の植生が一年生草本なのか多年生草本なのかを確認することが必要である。
- ・伐採のみの区域は竹類の成長が見られるので、何年に1回竹を切るかの管理方法を検討するためには、冠水頻度や伐採前後の洪水の状態について確認することが望ましい。
- ・議論するには、盤下げした結果、冠水域がどうなったかを盤下げ前との水深・流速等の比較が出来ればよかったが、無理であれば、冠水時の現場の写真等が必要である。
- ・伐根する手法と伐採のみの手法で、初期の費用と成長後の二次的な費用を考え合わせて、どちらが効率的、経済的かという議論をする必要がある。
- ・2年に1回、堤防法面の刈り取りと同じ方法でやれば十分に対応できると考える。
- ・大内地区についても、樹木が河道内にあることによる支障を検証してもらいたい。
- ・11月頃の調査結果で影響がないから伐採をやるのは非常に問題がある。調査は生態系が一番反映できる時期にすべきである。特に、鳥に関しては11月下旬は冬鳥しかいない時期であり、違った時期に他種が利用するかもしれないので影響がないとは言えない。
- ・伐採をした後、多様性がどう減ったか？特に鳥の埒への影響は？など、伐採の1年後、2年後ぐらいに、今回と同時期に同じような方法で調査して地域の生態系や鳥などにどの程度の影響があったかを確認することが必要である。
- ・コブシの移植後の管理方法は？ 移植して放置すると枯れてなくなってしまうということが多いため、管理方法を検討することが必要である。

(将来水質予測について)

- ・面源負荷の細分化を4区分から5区分にするというのは、何をふやしたのか？
→現状では、「その他」という区分をしているが、「その他」の区分を「市街地」と「それ以外」に分けた。

(河川環境目標について)

- ・砂礫河原が望ましい姿として上がっているが、木津川の場合は砂河川なので、対象とする区間を明確にした上で、望ましい姿や目標設定をつくってはどうか。
- ・笠置では最近洲ができたと聞いているが、最近の航空写真があれば昔の写真と比べて、次回に示してほしい。
- ・何を目標にするかというときに、その基本情報がないと目標設定が立てられないので基本情報が必要である。
- ・大目標はかなり観念的、抽象的になるが、サブ目標が大目標とどのように繋がるのか、目標間の整合性等をもう少し考えることでこうした目標の描き方もあると考える。
- ・環境目標のフロー図を見ると、下位の色々なブロックの中に大目標につながる目標を立てることが描ける。
- ・河川環境の何を、どう改善・回復するのか、どこの場所で、どういう形の目標を立ててやっているかを明らかにすることが望ましい。
- ・河川環境にどう結びつく目標のもとでダムからの土砂供給を試行しているかの狙いの部分をもう少しクリアにし、ダムからの土砂還元や流況改善についても、内輪でやっているような形にならないように、アピールすることが必要である。
- ・土砂供給について、現状を踏まえた目標や位置づけ等が必要であり、ダム管理者と河川管理者が連携して検討したい。
- ・ダム湖でのアユの再生産は興味のある事項であるが、将来の目標に対してどの程度の効果があるのかというあたりの評価は非常に難しい。
- ・名張川ブロックと木津川ブロックでは、ダムのあるなしで特性が違うため、目標も多少違うし、それぞれが総合して持っている木津川全体に対する貢献度も違うので、分けて目標設定することが良い。
- ・フリーの議論でやっていると言っていると意見が散在するので、まずは、たたき台としてもう少し埋め込んで描いたものにして、議論を繰り返すことが必要である。

(今後の進め方について)

- ・次回までに、本日の研究会での指摘や意見について、内容によってはワーキングに持ち帰り、ご指導、ご意見をいただき、それをまた持ち上げる進め方を行う。
- ・ワーキングが開催出来ない場合には、個別の意見聴取で行う。

5. 閉 会

以 上